

令和 7 年度 広島市立看護専門学校 外部評価委員会報告書

学校評価外部評価委員一堂に会し、学校自己点検・自己評価を踏まえて意見交換を行った。

【入学・就業・就職】

1. 広島市内への就職率の推移について、資料には、約 70%と書いてあるが、ホームページは、73.7%であった。この数年の間での推移を知りたい。

年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
市内就職率	61.8%	71.7%	71.6%	67.9%	72.3%	69.0%	73.7%

ここ何年かの推移を割合で表すとこのようになる。若者の県外流出も増えている中、広島市立の学校でもあり、できるだけ広島市内、地域に貢献できるよう考えている。

2. 市内就職に関しての推移は、そこまで大きな変化がないことが分かった。市立の看護専門学校なので、広島市の医療現場で貢献できるということが大きい。広島市に貢献できる、活躍できる学生となるよう、何か働きかけをしているのか

本校の教育理念に基づいて、学生には学校だより、行事等様々な機会を通して、繰り返しかみ砕いて説明している。進路ガイダンスには、実習病院を初め、市内、県内の様々な医療施設を呼び、学生に知ってもらうようにしている。就職支援に関しても、教職員は意識して支援を行っているが、学生の意思を尊重しながら支援している。

広島市内の医療施設に貢献する看護師を養成するうえで、臨地実習の役割は大きいと考える。学生は、実習を通して、就職を考える傾向が大きい。

その他、広島市の修学金制度があり、卒業後広島市内に就職すれば返還は、免除される。学生は、就職活動の開始までに時間がかかる傾向がある為、1 年次から意識づけを行い、時間をかけて自分にマッチした就職先を検討できるよう支援している。

3. 入学者の地域について

広島市内出身者が 8 割を占めている。推薦入試は全体の約 3 割を占めているが、受験要件が、広島市内在住が対象者としている。

統計については、出身高校所在地に基づく為、住所と一致しないケースもあり、市内・市外の区分には、一定の誤差が含まれる。

【学生支援】

4. スクールカウンセラーを導入した経緯との中で、今現在の状況について

スクールカウンセラーの導入制度については、約 10 年以上前から導入されており、学生の心身の健康増進とメンタルサポート体制の充実を図ることを目的としている。

運用状況としては、必要に応じて個別相談や教員からの紹介、学年ごとにグループ・個別カウンセリングの機会があるが、今年度は、前カウンセラーの事情で、年度途中から後任者が見つかるまで中止となり、利用実績は少なかった。その他の要因として、①相談に対する心理的ハードル、②学生のカリキュラムの過密さと開室時間の短さでのタイミング、③周囲の目が気になるプライバシーへの不安が考えられる。特に③に関しては、申し込み方法と匿名性は確保されているが、カウンセリング室が同じ校内の為、「同級生に見られたくない」などが利用を躊躇させる要因であると考えられる。

スクールカウンセラーの立場から言うと、教員ではなく、外部からカウンセラーが来るところに大きな意味がある。学校の先生たちには言いづらくても、外部から来た人には、ある程度安心して話せるところにスクールカウンセラーが非常勤になっている意味だと思っている。

今後は、学生が相談しやすい環境づくり、教員とスクールカウンセラーとの連携の必要性が課題となった。

5. 近年の学生の多様化により、学習の困難さや臨床への適応に課題が見られることがあるが、多様化する学生への支援について

基礎教育では、臨地実習を通して、学生個々の課題を把握するよう努めている。

実習では、1 人の患者さんを時間をかけて受け持ち、指導者と教員のサポートのもと安全を担保された状態で関わる事が可能である。一方、臨床に出ると多重課題、タイムマネジメント、複雑な医療機器の扱い、患者さんの権利や複雑な背景がある中で、自分で問題解決していかなければならない。看護基礎教育では、教員による手厚い支援が可能である一方、卒業後の臨床現場への移行にギャップが出てくる。このリアリティーショックを基礎教育と継続教育がどう連携しながらうめていくかが課題であるとする。

6. 実習指導体制と連携について

IA 報告に関し、学生のふりかえりレポートが各実習担当教員から提出されるが、実習ゼミの授業では、IA レポートをどのように活用されているか

IA 報告に関しては、報告フローに沿って病棟師長に報告を行っている。その後、学生とともに

に原因分析を行い、振り返りレポートにより学生の理解を深める。必要に応じてクラス、学年全体で共有を行っているが、客観的な原因分析力を養う指導について再考の必要がある。

7. 人材確保において、ホームページを更に充実されるとよいのではないか。
必要な情報量としては十分であると考えているが、興味を引くような工夫等、今後の検討課題とする。
8. 第二看護学科について、今後入学者数の減少が見込まれるが、定数について検討が行われているのかどうか教えてほしい。

第二看護学科のあり方については、すでに今後の状況や自治体方針との整合性も踏まえ、検討課題としている。